

コシヒカリの穂肥は生育診断に基づき施用しよう！

－ 重点事項 －

- ◎ 幼穂形成期以降は、間断かん水～飽水管理を徹底し、根の活力維持に努める。
- ◎ 穂肥は、生育診断結果と気象予報を考慮して、施用時期と量を判断する。
- ◎ カメムシによる斑点米発生防止のため、農道・畦畔の草刈りと薬剤防除を徹底する。

1 6月25日現在の出穂期予想 ～平年より2日程度早い見込み～

品種名	出穂期* (予想)	穂肥時期(出穂前日数)				合計施肥量 (チツ kg/10a)
		1 回目		2 回目		
こしいぶき	7/26	7/3	(23)	7/12	(14)	2～3
コシヒカリ	8/ 6	7/19～7/22	(18～15)	7/27	(10)	1～3

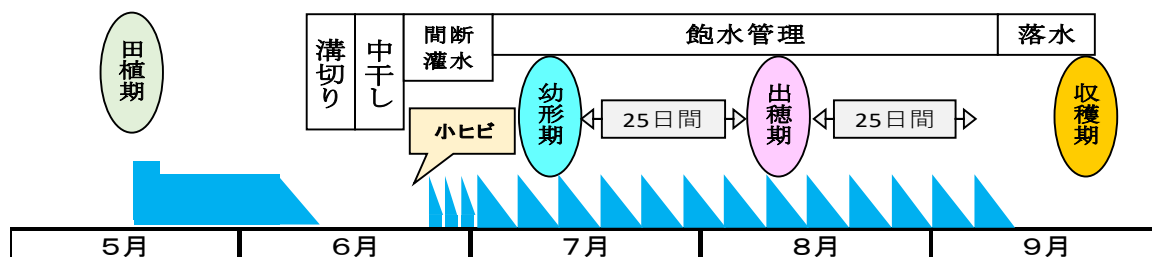
*こしいぶきは5月5日、コシヒカリは5月10日田植えでの予想日

※出穂期は気象条件で変動するので、必ずほ場の幼穂長を確認しましょう。

2 中干し終了後の水管理 ～根への酸素補給を忘れずに！～

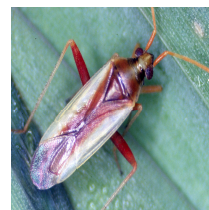
- 中干し終了後は浅水の間断かん水から飽水管理（溝や足跡に水があるうちにかん水を繰り返す方法）に移行し、うわ根の発生促進や根の健全化及び地耐力の維持に努めましょう。
- 幼穂形成期以降は、ほ場を過度に乾かさないように飽水管理を徹底しましょう。
- 異常高温・強風フェーン時は、水不足にならないように速やかにかん水しましょう。
- 極端な深水管理や長期間の湛水は根を傷め、下葉枯れにつながるため避けましょう。

【水管理のイメージ図】



3 カメムシ類の増殖源を無くしましょう

- 草刈りと適期防除で斑点米被害ゼロを目指しましょう。
- 下記の重点推進期間を中心に畦畔・農道の草刈りを徹底し、カメムシ類の増殖源（穂や実を付けた雑草）を無くしましょう。
- アカスジカスミカメは本田内の雑草でも増殖します。ヒエ、ホタルイ等が目立つほ場はできるだけ抜き取りましょう。
- 本田の薬剤防除は出穂後に確実に実施しましょう。



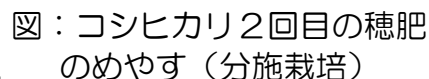
アカスジカスミカメ

草刈り重点推進期間（第2回）7月3日～7月12日まで！

○コシヒカリの 1 回目の穂肥施用は、下表の生育診断に基づき慎重に対応しましょう。

【分施体系における穂肥施用の診断ポイント】

※1回目の穂肥時期に低温・少照・多雨の場合は控えめにしましょう。



○2回目の穂肥施用後も葉色が淡い場合は、3回目の追加穂肥を準備しておきましょう。

技術情報の受信を希望される方は左記 QR コードからお申込みできます。
必要事項を記入の上、お申込みください。